

令和 3 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 4 年 2 月 2 1 日

江別市立中央中学校

1 本年度の重点目標

「心豊かで確かな学びと気づき」を積み上げる生徒たちと教職員  
～気づき・考え・工夫する～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
【経営方針の重点】 I 新たな時代の信頼を積み上げる学校づくりの推進	1 学校経営 全教職員の協働体制による機能的・組織的なマネジメントによる学校運営の充実	A	本年度も感染症による思いもよらない事態が次々と発生したが、工夫しながら、各分掌、学年の主任を中心に組織的に対処できており、次年度も継続する。	A	A
	2 教育課程 新たな学習指導要領に基づく適切な編成と開かれたマネジメント管理	A	本年度より新たな学習指導要領による教育課程がスタートしたが、混乱なく編成・実施することができた。次年度は、本年度の成果と課題を踏まえ、総合的な学習の時間や、修学旅行をはじめとする旅行的行事、キャリア教育等、3年間を見通した系統的な計画づくりと実践を図る。また、小中一貫教育についても、本年度の成果を踏まえて実践を積み上げ、令和5年度の本格実施に向け、計画的に事業を進める。	A	A
	3 学年・学級経営 学校経営に基づく、開かれた組織的な学年・学級経営の実践	B	初任段階教員など経験年数の少ない教員もおり、学年主任を中心として、引き続き、互いに声を掛け合い、風通しのよい学年職員集団を構築する。	A	A
	4 家庭・地域との連携 開かれた学校づくり学校と地域・家庭との連携を深める教育活動の充実	A	学校だより、メール配信を活用して、感染症対応など、情報を提供してきた。令和3年度末までに学校ホームページを全面的にリニューアルする予定であり、次年度はより一層タイムリーな情報提供に努める。	A	A
	○学校評価 信頼される学校づくりと教職員の資質向上を図る評価の充実	A	本年度は、学校評価計画をあらためて確認するとともに、生徒アンケートや保護者アンケートの内容の見直しに取り組んだ。次年度は生徒アンケートを教職員自己評価の7月と12月	A	A

			に位置づけ、校内研究の評価としても価値付ける。		
	5 専門職としての教職員の在り方 資質・能力と人間性、同僚性を高め、 説明責任を果たすことのできる教職員	A	年間計画に位置づけた校内研修以外にも、GIGA スクール構想による一人一台端末の有効活用に向けた自主的な学習会をたびたび実施するなど、教職員の資質・能力の向上の雰囲気が高まっている。初任段階など若い職員も多いことから、引き続き、同僚性を高め、切磋琢磨する教職員集団を目指す。	A	A
	○危機管理 生徒・教職員の生命・安全と学校資産を守る危機管理の充実	B	校内での事故防止に向け、毎月の安全点検を実施するとともに、生徒の所在確認の徹底や洗剤や危険物の管理等、安全管理体制を改善してきた。次年度も危機管理意識を形骸化することのないよう、日常的に管理体制を確認・徹底する。	A	A
	○管財・経理 学校備品・経理事務等の適正管理と執行の工夫	A	備品・経理事務は適正に執行できており、次年度も継続する。	A	A
【教育課程・学習指導】 II 自ら学び考える力を育む学習活動の推進	6. 学習指導 確かな学力を定着させる主体的・対話的で深い学びの教科指導実践と評価の積上げ	B	全国学力・学習状況調査によると、3学年の結果は全国平均をやや下回る結果となった。全学年で実施した標準学力検査においても、「思考・判断・表現」を問う問題や、「読むこと・書くこと」に課題が見られた。全国学力・学習状況調査や標準学力検査で明らかになった課題について、主幹教諭を中心に、教科ごとに改善策を具体的な数値目標も含め設定した学校改善プランを作成して、学力向上に取り組んでいるところである。また、主体的・対話的で深い学びや、学ぶ意欲の向上をテーマに校内研究の充実が図られてきており、令和5年度発表の石狩管内教育研究会・江別市教育研究会指定の学校課題研究発表会に向け、日常の実践に一層取り組む。	A	A
	7. 総合的な学習の時間 学ぶ意欲を引き出し、生きる力を育む体験的学習の充実	B	総合的な学習の時間については、感染症対策により計画通りの実施が難しい学習内容が多く、計画修正の多い1年となった。これを機に3年間の系統性を見直し、次年度以降の計画立案に取り組んでいるところである。次年度は本年度末に整備した計画を実施することで、より一層の学習効	A	A

			果が期待される。		
【生徒指導】 III 豊かな人間性と社会性を育む 道徳教育や体験活動の充実	8 道徳教育 心に響き、思いやりと豊かな心を育む道徳指導の充実	A	特別の教科道徳の指導においては、教科書を使用しての指導とともに、学びの成果を学級だよりで紹介するなど、各学年・学級において積極的に展開できた。次年度も効果的な道徳指導に努めるとともに、指導資料を蓄積する。	A	A
	9 生徒指導 時間や身なり服装、挨拶礼儀を基本とした心育む生徒指導の充実 (いじめ・不登校対応含む)	A	大きな非行問題は発生しなかったものの、新規不登校生徒や登校しぶりの生徒の増加を食い止めることに苦慮している状況である。 いじめ対応については、いじめアンケートも利用するなど、いじめを積極的に認知し、解決に取り組んできた。生徒会においても、いじめ防止標語を全校から募集・表彰するなど、取組を進めてきた。 次年度においても、登校しぶりの段階での適切なサポートによる新規不登校生徒を出さない取組や、いじめを許さない取組を推進する。	A	B
	10 教育環境の整備と管理 落ち着きや豊かな感性を育む、安心安全な教育環境の充実	A	来年度で開校から30年を迎える本校は、随時補修工事を行い、安心安全な教育環境を整えているところであるが、老朽化している箇所も多くあることから、必要な箇所は修繕を依頼するなど、引き続き、安心安全な教育環境の整備に努める。	A	A
	○ 読書活動の推進 豊かな心を育む読書活動の充実	A	年間を通じて、朝読書を実施してきた。一日の始まりを静寂な朝読書から始まるのが大切であり、次年度も継続する。	A	A
IV たくましく健やかな体を育	11 学校部活動 夢や目標を持ち、切磋琢磨し、努力する態度を育む部活動の充実	A	江別市内中体連夏季大会の延期、秋季大会の中止など、感染症により計画が変更される事態となったが、大きな事故なく活動することができた。次年度も感染対策を講じながらの活動が予想されるが、引き続き、生徒の主体的な活動の充実を図る。	A	A
	12 健康体力・安全指導 生命を守り、心身を鍛える主体的な態度を育む健康体力と安全指導の充実	A	新体力テストでは、体力の低下が確認されており、感染症による休校措置や部活動停止による影響が少なからずあるものと捉えている。全国体力	A	A

み主体的に安心安全を守る教育活動の推進			運動能力、運動習慣等調査の結果も踏まえ、日常の保健体育の授業での補充運動や部活動等により、生徒の体力向上に引き続き取り組む。 また、怪我が多いことが教職員自己評価でも指摘されており、部活動での準備運動の徹底や保健体育授業での安全指導等、必要な改善を図る。		
	○ 食育 望ましい食習慣を身に付け、自ら健康管理できる食育指導の充実	A	栄養教諭や江別市と連携した食育指導や、江別の逸品コンテストへの参加など、食育事業に積極的に取り組むことができしており、次年度も継続する。	A	A
V グローバルで心広い視野を育む教育活動の推進	13 特別支援教育・教育支援 個々個別の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を図る教育や対応の充実	A	普通学級における特別な支援を必要とする生徒が増加しているが、人員が不足しており、十分な支援ができないのが実態である。今後も人的な状況は大きく変化しないが、引き続き、加配教員や学習ボランティアを活用するなど、可能な範囲で、個々の困り感に応じた学習支援に取り組む。	A	A
	14 特別活動 自主的実践的態度や社会性を育む集団活動の充実	A	感染対策を講じながらのため、集団活動が思うように実施できない状況であるが、旅行的行事や総合的な学習の時間、学級活動において、可能な範囲で生徒の自主的な活動を引き続き実践できるよう工夫する。	A	A
VI 未来を見据えて自ら課題解決に適切に	15 進路指導 自ら自己実現を図ることのできる進路指導と支援の充実	A	進路指導は3年生に限ったものではなく、3年間を見通した、より系統性のある指導になるよう指導計画の改善を図る。また、1、2年生に対しても進路だよりの発行や掲示をするなど、進路に対する意識を早い時期からもたせることができるよう取組を工夫する。	A	A
	16 情報教育とICT活用の充実 正しく効果的な情報活用能力を育む情報やICTを活用した教育の工夫	A	Society5.0時代を生きる子どもたちに対して、ICTを有効に活用しながら主体的・対話的で深い学びや個別最適化された学びの実現に向け、本年度よりGIGAスクール構想による生徒一人一台の学習者用コンピュータが整備された。本年度4月より、その運用が	A	A

対処する活動の充実			開始され、手探りの実践となった。 次年度は小学校で1年間活用した新1年生も入学することから、小学校との引継ぎも含め、3年間の系統的な学びを構築する必要がある、年度末までに準備を進め、より一層効果的な学びを展開できるよう工夫する。		
	17 防災・減災教育 災害などを理解し、自ら安全を確保し行動する防災教育	A	感染症対策により、全校生徒が一堂に会しての避難訓練は困難な状況であったが、緊急事態宣言後の秋に、体育館に集合する訓練を実施することができた。現在、災害対策を含め「危機管理マニュアル」を全面改訂しており、教職員内で危機管理体制を強化する。	A	A
VII 教員の指導力と職能専門性の向上を図る研修活動の充実	18 研修活動 新しい課題に対応した指導実践実際に結びつく研修活動の充実	B	感染症対策のため、多くの研修がリモート開催や中止となり、教職員の研修活動は全体的に停滞しているものと捉えている。 本年度より本格実施となった学習指導要領への対応や令和5年度より実施となる小中一貫教育など、新たな学校課題について、職員会議や校内研修において、全教職員が共通理解・共通行動できるよう努めてきたが、次年度も引き続き、市教委や石狩教育局、各研究団体と連携してタイムリーな研修活動を工夫して実施する。	A	A
	19 校内研修 生徒たちの確かな学びと気づきのために学び続ける教職員研修	B	感染対策により、教員全員で一つの授業を観察して研究協議することはできなかったが、授業を録画するなど、工夫して授業研究に取り組むことができた。令和5年度に石狩管内教育研究会と江別市教育研究会の学校課題研究発表会の指定を受けた。 令和5年度の研究発表に至るには多くの課題があり、次年度はさらに組織的で質の高い校内研修となるよう本年度末に準備を進める。	A	A
VIII 今日的な課題	20 小中連携とCS 系統性と連続性のあるCSと連動した校区小中一貫教育の導入準備	A	令和5年度からの小中一貫教育の本格実施に向け、本年度は6年生の登校体験を2回、中学校教員による乗り入れ授業、教科の交流(数学・英語)の実施、英検・漢検の合同実施、生徒指導交流、管理職と主幹教諭による3校会議等に	A	A

や子どもたちの未来を見据えた課題への対応			よる目指す子ども像の設定や組織、具体的なスケジュール立案等に取り組んだ。また、保護者アンケートにより、学校・家庭・地域のありたい姿についても意見を集めることができた。次年度も本年度の成果を踏まえ、より活発な連携に努める。		
	21 働き方改革 管理職と教職員の理解と工夫、協働による働き方改革の推進	B	本年度は校務支援システムの活用による事務作業の軽減に努めたり、勤怠管理システムによる出退勤時刻の可視化したり、2月からは時間外の留守番電話の設置も開始するなど、小さな取組をコツコツ積み重ねてきた。教職員の意識も高まってきている。次年度に向けては、学校行事やさまざまな取組の精選や、会議・校内研修の時間確保など、計画段階でおおいに議論して働き方改革を推進するよう取組を進めているところである。	A	A
	22 コロナ禍の学校運営の工夫 新型コロナウイルス感染症に対策と対応した学校運営の工夫	A	本年度は5月に感染による学級閉鎖を1学級で行った。数件の家庭内感染や、部活動(対外試合)での他校の陽性判明による検査対象者の指定はあったものの、校内的な集団感染には至らなかった。各家庭には文書やメールにより、感染対策について協力を依頼してきたが、同居家族に風邪症状のある場合には登校させないなど、協力をいただき、大きな混乱はない状況である。今後も引き続き、手洗い、手指消毒、換気など、基本的な感染対策を徹底しながら可能な範囲で教育活動を継続していきたいと考える。	A	A
<p>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を講じながらの学校運営に対して、各委員から労いの言葉をいただいた。</li> <li>・自己評価については適切、おおむね適切との意見をいただいたが、B評価が多く自己評価が厳しいのでは、との意見もあった。</li> <li>・改善策の適切さについては、「7 生徒指導」の不登校生徒の増加の課題に対して、より具体的な改善策・手立てを講じる必要があるとの意見があった。</li> <li>・学校運営委員会も感染対策のため、参集しての会議ができない場合は書面会議を実施したが、Web上での会議を検討するなど、工夫も検討してはどうかとの意見があった。</li> </ul>					